

学力向上を図るための全体計画

児童の実態

- ・明るく元気
- ・素直で優しい
- ・学力の個人差が大きい
- ・自分の考えを表現することが苦手な児童が目立つ

本校の教育目標

- 正しく ・自分の考えをもち、表現できる子ども
- ・創意工夫して、解決に努める子ども
- 強く ・最後までやりとげる意志の強い子ども
- ・健康づくりに取り組む子ども
- やさしく ・相手の立場にたって考えることができる子ども
- ・互いに助け合い、豊かな心をもつ子ども

社会の要請

憲法
教育基本法
学習指導要領
都の教育目標
区の教育目標

等

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- (2) 個性・能力に応じた指導を工夫し、学習意欲の向上を図る。
- (3) 発達段階に応じて家庭学習を充実させ、学習習慣の確立を図る。
- (4) 多摩川の自然や地域の文化、人材の活用などにより活動を工夫し、習得・活用・探求型の学習の充実を図る。
- (5) 全教育活動を通し、言語活動を重視し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- (6) 児童理解に基づく計画的な授業の実践を図る。

各教科の指導の重点

- ・地域の自然や文化を大切にする体験的な学習等、多様な学習活動の工夫により、習得・活用・探求型の学習の充実を図る。
- ・児童理解に基づく授業改善推進プランを活用し、基礎的・基本的な内容を十分に習得させると共に学習意欲の向上を図る。
- ・既習事項を反復することで基礎基本の習熟を図る。
- ・「聞く」「話す」活動を取り入れた指導計画を作成し言語活動の充実を図る。

本校の「学力向上のための手だて」

- ・「生き生きと学ぶ子どもの育成」という主題で校内研究を行い、算数科を中心として児童が「できた、分かった、楽しかった」と感じる学習活動の充実を図る。
- ・全校一斉に、週3回朝学習の時間を設定し、漢字や計算の基礎的な力をつけさせる。
- ・保護者の協力も得て読書に親しむ環境をつくり、読むことを通して国語の基礎的・基本的な力をつけさせ読書の楽しさを味わわせる。
- ・算数の学習において習熟度別指導を行い、各学年で必ず習得させる基礎的・基本的な内容を個に応じて学ぶことができるような学習環境を整える。
- ・放課後や土曜日・夏季休業中の補習に全校体制で取り組み補習の充実を図る。
- ・家庭と連携してよりよい学習・生活習慣を身につけさせる。

道徳教育の重点

- ・道徳教育推進教師を中心にして道徳の授業を充実させ、各教科、特別活動と関連をもたせながら、児童一人一人の道徳的実践力を伸ばす。
- ・道徳教育の全体計画に規範意識向上プログラムを位置づけるとともに、人間尊重の精神の育成に努め、自他の人格を尊重し互いに信頼し協力して助け合う態度を育てる。
- ・道徳授業地区公開講座を学校公開日に行い、地域や家庭と連携した道徳教育の実現を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・児童の興味・関心を基に、多摩川の自然や文化に目を向けさせ、体験的な活動を重視しながら、環境問題に進んで取り組む児童を育成する。
- ・パソコン等の情報機器に慣れ親しみ、適切に活用して、学習活動を充実させる。
- ・ものづくり学習・日本の伝統文化学習等で地域人材を活用した体験学習を展開し、個性と創造力を伸ばす。

特別活動の指導の重点

- ・児童が主体となる行事(どんどこ集会等)や異学年交流(縦割り班活動等)の体験的諸活動を計画し、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ・体育朝会・音楽集会等の集団活動を通して個性の伸長を図り、自主的・実践的な態度を育成する。

生活指導の重点

- ・毎月の生活目標を各学年、学級で具現化すると共に看護当番が中心となって、指導の徹底を図る。
- ・学期毎に担任と児童の面談を行い、児童理解を深める。
- ・避難訓練、セーフティ教室を実施し、安全に対する児童の実践的態度を養う。
- ・「子どもの心サポート月間」の調査結果なども活用しながら、必要に応じてケース会議を開き、全校態勢でいじめや不登校児童の問題の解決を図る。

進路指導の重点

- ・家庭や地域社会と連携協力し、一人一人の児童のよさや可能性の発見に努める。また、児童が将来に向けて夢や希望を大切にし、目標をもって生きようとする態度を育む。
- ・中学校との連携を図り、情報交換などを密接に行い、特別活動や授業交流活動等を通して、中学進学に対する希望や意欲をもたせる。

本校の授業改善に向けた視点

※プランの実効性を高める校長の方略

- ・年7回の研究授業を通し教員の授業力向上を図る
- ・自己申告時や日常の授業観察を通して指導助言を行う
- ・地域人材・環境を活用した体験的学習活動の充実

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>言語活動を重視し、基礎的基本的な知識・理解の習得と思考力・判断力・表現力を育成する。そのために、繰り返し学習や習熟度別学習、問題解決学習などの指導法を改善する。</p> <p>児童理解に基づく教材・教具等の工夫や整備を行い、学習環境の充実を図っていく。</p>	<p>授業時数を確保できる教育計画を立て、実施する。</p> <p>「朝学習」を週3回実施し、読書・漢字計算練習を通して基礎学力の定着を図る。</p> <p>放課後は3～6年で月1～4回の「多摩小タイム」、土曜日は年間6回の土曜日の課外授業、夏季休業中は4日間の夏季学習教室を行い、補習を充実させる。</p>	<p>校内研究授業を年間6回実施し、教員の専門性を高め、資質の向上を目指していく。</p> <p>若手教員による授業研究会を月に1回程度実施し、授業力の向上を図る。</p> <p>OJT研修を計画的に実施し、教員相互の教え合い学び合いを促す。</p>	<p>年間指導計画を基礎として、観点別評価を加味した評価規準の設定並びに評価の改善に努める。</p> <p>授業参観や道徳授業地区公開講座等で保護者等からアンケート(評価)を回収し、改善に生かしていく。</p> <p>学校関係者評価を行い、指導方法について保護者や地域の方の意見を参考にし、指導法の改善を図る。</p>	<p>児童の家庭での過ごし方について実態調査を行い、その結果を基に、家庭学習や規則正しい生活習慣等が定着するよう、家庭と連携を深めていく。</p> <p>各教科や総合的な学習の時間において、地域の人材・環境を生かした教育活動を行い、地域から学ぼうとする心情や地域を愛する心を養う。</p>

国語科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<p>昨年度の成果と課題</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年や中学年では、発表の場を多く設定したことで、自分が感じたことや考えたことを進んで友達に伝えられる児童が増えた。高学年は、話を自分の考えと比べながら相手の話を聞くことで、話し合いが深まるような質問や意見が出るようになった。 ・高学年は、書く対象を明確化して作文を書かせることで、論理的に表現できる児童が増えてきた。 ・段落相互の関係を読み取ることや、資料と文章を関連付けながら読むことで、要旨を捉えることができつつある。 ・「書くてたのしいね」を活用することにより、主語、述語の対応、書く事からの整理、句読点や「」などの使い方を意識できるようになってきている。 ・家庭学習や新出漢字の学習を徹底した。一文字ずつではなく、熟語として覚えたり、自分の苦手なところを何度も繰り返したりするなど、個々にあった学習方法を取り入れるようにした。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、話の中心を聞き取ることや考えをまとめて話すことに課題が残る。特に、話を最後まで聞くことに課題が残る。高学年は、話の組み立て方に課題が残る、自分の思いはあっても、的確に話すまでに時間がかかる。 ・中学年は書こうとすることの中心を明確にしたり、様子や考えを詳しく書いたりすることに個人差があり課題が残る。 ・大事なことを落とさずに聞くことができていることや、最後まで聞かずに自分の判断で行動してしまうことが目立つ。 ・物語文では、叙述を基に登場人物の心情を読み取ることにはやや課題が残る。 ・全体的に語彙力の少なさに課題が残る。低学年から、促音・拗音、助詞の使い方の定着を図ることが必要。 					
分析	<p>国語への興味・関心は5学年は目標値を4ポイント上回っており改善されている。6学年はやや低下しており、4学年は大きく下回っている。</p>	<p>話の内容を聞き取る力はついてきており、どの学年も正答率が目標値を上回っている。特に5学年は目標値を6ポイント以上上回っている。</p>	<p>どの学年も書く力には課題が残る。4学年の書く力は目標値を大きく下回っており、課題が多い。</p>	<p>説明的文章を読み取る力は段落のまとめや文の構成を考えながら読むことに課題が残る。4学年、5学年は目標値を上回っており、やや改善傾向がみられる。</p>	<p>昨年度に比べ、新出漢字の定着が見られつつある。5学年は目標値より10ポイント以上上回っており、6学年は7ポイント以上上回っている。</p>
課題	<p>学年による隔たりをなくすために、教材開発や授業での発問の工夫を行うことが必要。</p>	<p>自分の考えが明確に伝わるような話の組み立て方、メモの取り方に課題が残る。</p>	<p>文の構成の意味理解ができていないため、自分の考えや意図を整理して詳しく書くことが苦手である。</p>	<p>文章の段落相互の関係を捉えながら、中心となる内容を読み取る力が必ず</p>	<p>漢字の書き取りに関しては、定着しつつある。全体的に語彙が少ない。</p>
改善策	<p>(低学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心をもつような授業の導入、教材開発を行っていく。 ・自分が感じたことや考えたことを順序よくはっきり話せるようにするために、事柄の中心をはっきりさせる。また、大事なことを落とさないで聞けるように、話の聞き方の基本（教室掲示）を意識させ、繰り返し指導していく。 ・文章は主語、述語を対応させて書かせる。書く事柄を順序立てて書けるようにする。句読点や「」などの使い方を繰り返し指導する。特に、書く単元に取り組む度に「書くてたのしいね」を活用し、文法的指導を行う。 ・毎週、図書室で読書をする時間を確保する。また、教師による読み聞かせを行い、読書に親しませる。 ・書かれていることの順序や場面の様子などに注意して、想像を広げながら読むことに取り組む。友達との交流を通して、読み取りの力も育てていく。 ・新しく習った文字や漢字の字形や筆順の指導を徹底し、読み書きの定着を図る。 <p>(中学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かりやすく話すために、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話せるように指導する。また、話の中心に気を付けて話したり聞いたりすることに意識し習慣をつけさせる。 ・書こうとすることの中心を明確にし、事柄を整理しながら文章を書くことに取り組ませていく。 ・学年相応の図書を推薦したり、読書の時間を十分確保したりして、楽しみながら読む力を身に付けさせる。 ・新出、既習漢字の反復練習と小テストを通して、漢字の書き取りの定着を図る。国語辞典や漢字辞典を活用して、語彙を増やす。 ・他教科でも、パソコンの文字入力などでローマ字を活用し、慣れ親しみながら習得させていく。 ・発表の場を多く設定し、自分が感じたことや考えたことをすすんで友達に伝える力を身に付ける。 ・教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことのできる工夫を行っていく。 <p>(高学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫させる。スピーチを行い、自信をもって話すことができるようにする。友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、話し合いが深まるような質問や意見が出るよう意図的に働きかける。 ・書く対象を明確にして作文させ、自分の考えが伝わるように論理的に表現できるようにする。より内容の理解を深められるようにする。 ・学年相応の図書を推薦したり、他教科での学習に関連する本を紹介するなどして、読書の習慣を身に付けさせる。 ・資料と文章を関連付けながら読むことを指導する。小見出しを付けるなどして文章全体の構成や要旨をつかめるようにする。 ・物語文は、登場人物の心情を叙述から読み取るようにする。優れた言葉や文に触れ、語彙力を高めていく。 ・新出、既習漢字のくり返し学習と小テストを通して、漢字の書き取りの定着を図る。国語辞典を活用し、語彙を増やす。 				

社会科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p><成果></p> <p>中学年・フラッシュカード等を使用することにより地図記号に興味をもたせることができ、楽しく学習をすすめられた。 ・商店街や工場などを見学して、メモをもとに発表したことにより理解が深まった。 ・地域の見学などの体験的学習に力を入れたことで、地域の施設を含めた学校の回りの様子を把握することができた。</p> <p>高学年・国語科との関連を図って、自分の考えを繰り返し書かせたり、述べさせたりする練習を授業の中で取り入れた結果、事象の理由や自身の考察について、表現する力がついてきている。</p> <p><課題></p> <p>中学年・地図記号を活用する場面が少なく、十分に定着できていない。 ・区の地図をもとにグラフを正しく読み取ること、地域の人々の生活や販売についての資料を読み取ることが苦手であり、得られた情報を一般化して、知識として身に付けさせていきたい。</p> <p>高学年・他の地域や国との関わりを身近なものとしてとらえることができていない。</p>			
分析	<p>社会的事象に対する関心は全体的に高い。自分の生活と密接に結びついていない子どもたちが感じてしまう単元（生産や販売、災害・事故防止、情報、領土問題など）でも、徐々に関心が高まってきている。</p> <p>☆4年は目標値より5ポイント上回る。5年は1.2ポイント下がり、6年生はほぼ同値。</p>	<p>設問で与えられた情報を利用して、考えをまとめることや、複数の資料を関連付けて判断すること、資料から事象の変化を読み取れることを苦手としている。読み取れた場合においても、用語の定着が低いためそれを文章にすることが難しい。</p> <p>新聞づくりなどの多様な表現活動によって、表現する力は少しずつ伸びてきている。</p> <p>☆5年生は1.8ポイント上がり、6年生はほぼ同値。</p>	<p>資料から分かったことを挙げるができるようになってきたが、複数の資料を組み合わせる社会的事象を読み取ることが難しい。</p> <p>☆5年生はほぼ同値で、6年生は1ポイント下がった。</p>	<p>実際に体験していないことや身近でないことに関する知識や理解が深まっていない。逆に、自分で体験したことは理解できている。見学、体験、まとめ、発表という流れで学習すると定着しやすい。</p> <p>☆4年生は目標値より5ポイント上回る。5年生は4ポイント上がり、6年生は1.8ポイント下がった。</p>
課題	<p>自分の暮らしに対する、大きな視点をもつことができるように支援していく必要がある。自分の生活と関連付けた例えや説明をして、自分の問題として興味をひき、関心を高めていけるようにしていくことが課題である。</p> <p>ニュースや新聞等を見たときに、その中の情報に疑問を抱いたり、より身近なこととして感じたりすることに課題がある。</p>	<p>授業の中で、教科書や副読本、資料集などのグラフ・表・写真・絵・地図・年表などから読み取れることは何かを演習させる時間をとること、複数の資料を提示して、多面的に物事を捉えさせる指導をすることが課題である。</p> <p>世の中で起きていること（生産に関する問題）に疑問や問題を感じていないため、それに対する具体的な改善策を考えることができない。情報と産業の関わりについて考察することが難しい。</p>	<p>複数の資料を組み合わせた情報の分析、根拠ある理由をもって正しく判断する力を付けさせる指導の充実が引き続きの課題である。簡単な社会科の用語に対する知識不足が、資料を正しく読み取れることを妨げている。児童が、学習した用語に触れる機会を多く設けられるようにしていく必要がある。</p>	<p>実際に体験することで、理解が深まるが、授業で取り入れることは難しい。</p> <p>できる体験だけでも、なるべく多く授業に取り入れていく必要がある。</p>
改善策	<p>成果が見られ始めているので、以下の項目について継続的な指導をしていく必要がある。</p> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎資料集や地図帳、絵地図を発展させて、地図を指導する。 ◎校外学習や見学などの体験的活動を重視する。特に地域の人々の生産や販売、災害や事故防止について、見学や調査をしたり、資料を活用したりして調べ、それらに従事している人々の工夫や努力を考えさせる学習を組み立てる。 ◎地域社会における災害及び事故防止について、関連諸機関の相互の連携体制を理解させる学習を取り入れる。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎図・写真・表・グラフ・年表などを取り入れた新聞づくりなどの多様な表現活動を行うことにより児童の思考力の育成を図るとともに、資料集などの資料を用いて社会的な思考・判断の力を養うようにする。また、いくつかの資料を組み合わせ、それらから読み取れることを考える時間を作り、新聞などに親しませる時間を作っていく。 ◎工業や農業など身近でない内容は、自分自身や自分の生活と関連付けながら、主体的に考えさせる活動を取り入れる。 <p>共通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎国語科との関連を図って、自分の考えを繰り返し書かせたり、述べさせたりする練習を授業の中でできる限りさせていく。 ◎知的な好奇心を高め、論理的思考を養うための問題解決的な授業展開を行う。 			

算数科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
昨年度の成果と課題	(低学年) 操作活動を多く取り入れることで問題内容の理解に効果が上がった。また、個別指導、ドリル学習を行うことで足し算や引き算、九九など計算力が身についてきた。少人数指導やT T等をさらに充実させた。 (中学年) 算数に対して、関心・意欲が高まってきている。特に表現処理能力が高まっているが、図形、特に作図を苦手としている児童がいる。 (高学年) 関心・意欲がだいぶ高まってきている。数と計算領域はドリル学習で反復練習を行ったので、基礎基本の定着を図ることができた。			
分析	どの学年も全体的に関心・意欲が高まっている。学習課題に対しても、粘り強く取り組めるようになってきている。	どの学年も向上が見られる。問題を式に表すだけでなく、言葉、図で表したり、他者に説明したりすることもできるようになってきている。	昨年度と比べ、高学年では数と計算、数量関係は10ポイント近く上回っている。図形関係は横ばい状態	知識・理解は、全体的に向上している。グラフの読み取りなど数量関係では、各学年5ポイント以上上回った。数と計算の領域が昨年度より下回っ
課題	関心意欲の向上をはかるために、身近なものを用意したり、課題解決したくなるような問題を考えたりするなど、導入時を工夫する。	問題解決能力や筋道を立てて考える能力が低い。そのために、グループでの話し合いや、全体で多様な考えを検討する場面をさらに多く設定す	図形領域の向上を図るために、具体物を使った操作活動を多く取り入れたりすることで、公式の意味を理解させるように	具体物を操作して感覚を養うとともに用語・公式の定着をさらに図っていく必要がある。
改善策	<p>◎教員自身が、系統性を意識した指導ができるよう研究・研鑽に努めるようにしている。</p> <p>◎「授業で分かったこと」「友達からの学び」「感想・考え」と視点を絞って学習感想を書かせ、次時への意欲喚起、友達と学ぶことの楽しさや大切さに気付かせていく。</p> <p>(低学年)</p> <p>◎具体物や半具体物を操作したり絵や図に表したりして問題場面を理解しやすくする。</p> <p>◎足し算や引き算、九九は計算の仕方や方法を児童に考えさせ、説明することを通して思考力を高める。ベーシックドリル、ステップ学習のチェックシート等をもとに学習の定着状況を把握する。</p> <p>◎図形を使ったパズル遊び等を授業に取り入れる。</p> <p>◎単元に合ったレディネステストを作成し、1年生から少人数指導やT T指導を効果的に行う。</p> <p>(中学年)</p> <p>◎身近な物を使って単元の導入を工夫し、取り組みやすくすることで、関心意欲を高めていく。</p> <p>◎数と計算領域は、単元ごとに前学年に立ち戻った練習を行ったりドリル学習等で反復練習を引き続き行ったりし、計算力の定着を図る。特に四則演算のきまりについて反復練習する。</p> <p>◎既習事項を使って、問題解決していくことを積み重ねる。ペアやグループでの話し合いを行ったり、全体で多様な考えを検討する場面を設定したりすることで、友達の考えを聞いて自分の考えを深めていけるようにする。</p> <p>◎量と測定領域では、具体的な操作等を取り入れて、重さや長さ、かさ、時刻と時間について体験を通して身に付けさせていく。また、具体物や掲示物を活用できるように学習環境を整える。</p> <p>◎図形に親しみ、作図や測定等の作業を増やす。</p> <p>◎学習カルテ、算数ステップ学習のチェックシート、ベーシックドリル等をもとに学習の定着状況を把握し、必要に応じて学習カウンセリングを行い、学習の定着をはかる。</p> <p>◎問題をつくったり解き合ったりする活動を取り入れ、さらに理解を深めたり思考力を高めたりする。</p> <p>◎単元の内容に合ったレディネステストを作成し、習熟度別少人数指導を工夫して行う。そして個に応じた指導を充実させ基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>(高学年)</p> <p>◎身近な教材を用いたり、単元の導入を工夫したりすることで、関心・意欲を高める。</p> <p>◎問題解決学習を引き続き行い、筋道を立てて考えたり表現したりする場面を増やし、数学的な考え方を身に付けさせる。また、ペアやグループで考えを検討する場面を増やし、自分の考えを深めていけるようにする。</p> <p>◎数と計算領域は、単元ごとに前学年に立ち戻った練習やドリル学習等で反復練習を行い、計算力の定着を引き続き図る。</p> <p>◎単元の内容に合ったレディネステストを作成し、習熟度別少人数指導を工夫して行う。個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>◎数量や図形に対する概念形成のため、図形に親しみ、作図や測定等の作業を増やし、理解を深める。</p> <p>◎学習カルテ、算数ステップ学習のチェックシート、ベーシックドリル等をもとに学習の定着状況を把握し、必要に応じて学習カウンセリングを行い、学習の定着をはかる。</p> <p>◎量と測定領域では、具体的な操作等を取り入れ身に付けさせる。具体物や掲示物を活用できるように学習環境を整える。</p>			

理科 授業改善推進プラン

	興味・関心・意欲	科学的思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察などの体験を通して、理科に対する興味・関心が高まった。 自分の経験や既習事項をもとに予想を立てて実験に取り組む児童が増えた。 学習内容が知識として定着してきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 結果から考察し、結論を導き出すことが苦手である。 自分の考えを表現するスキル（言葉、図など）が育っていない。 実験・観察器具の扱い方が定着していない。 			
分析	いずれの学年も正答率が目標値を2ポイント以上上回った。理科に対する興味・意欲が高まったと言える。	どの学年も正答率が目標値を2ポイント以上上回った。6ポイント以上上回った学年もあり、科学的な思考・表現力に伸びが見られる。	2学年で4観点中最も正答率が低くなっており、観察・実験の技能については、引き続き課題が残る。	どの学年も、4観点の中で最も正答率が高かった。目標値をやや下回った学年もあった。
課題	児童がさらに主体的に問題を設定し、実験・観察を進めることができるようにしていく。	実験や観察したことをもとに、なぜそうなったのかを推論する力をさらに伸ばしていく。	実験・観察器具の適切な使い方が理解できていない。実験や観察した結果をグラフや図に表すことが課題である。	実験や観察を通して、用語を確実に理解し、使えるようにしていく。
改善策	<p>(中学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体となって学習問題を見いだせるよう、事象提示の仕方を工夫する。 実験や観察時には、その目的や視点を明確にし、児童が「何のために実験・観察するか」をはっきり意識しながら活動できるようにする。これを続けることが結果を考察して結論を導き出すことにつながる。 実験や観察の結果を、自分なりの言葉や絵、図で表現できるよう、表現方法を引き続き指導する（話型、色・形・大きさなどの観点）。表現方法の基礎を身に付けさせ、高学年の土台としたい。 実験や観察ができる環境を整備し、日常的にふれられるようにする。 「なぜその器具を使うのか」「なぜその手順で実験・観察するのか」、理由を理解させた上で技能を身に付けられるようにする。主要器具については全員が操作できるよう計画を立てる。 <p>(高学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察をした後に考察する時間を十分にとり、自分の言葉で結論を導き出せるようにする。 実験や観察から得られたことを適切な方法（図表・言葉）で表現できるようにする。 実験の機会を多くし、一人一人が主体的に実験に取り組めるようにすると共に、器具の扱い方に慣れるようにする。 体験活動やくり返し学習することを通して、確実な知識へと定着させる。 生活の中での理科学的な事象について、意識的に話をするすることで、理科を身近なものと感じさせるようにする。 			

音楽科 授業改善プラン

		歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞
昨年度の成果と課題	低学	<p><成果> 音楽活動全般的に意欲的で、生き生きと取り組むことができた。</p> <p>《課題》 鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングなど、基礎的な技能の定着を図る。</p>			
	中学年	<p><成果> 音楽にすすんでかかわったり親しんだりすることができ、歌や器楽、音楽づくりの基礎的な表現能力や、鑑賞の能力は少しずつだが定着してきた。</p> <p>《課題》 音楽表現を工夫する能力を身に付けるようにする。</p>			
	高学年	<p><成果> 音楽活動への意欲にはばらつきがあるが、歌や器楽、音楽づくりの基礎的な表現能力や、鑑賞の能力は少しずつだが定着してきた。</p> <p>《課題》 思いや意図をもって表現する。また、楽曲の理解を深め自分たちの音楽表現に生かす能力を身に付けるようにする。</p>			
児童の実態・課題	低学年	<p>生き生きと楽しみながら歌っている児童が多いが、曲想を感じ取らずに歌ってしまう児童もいる。</p>	<p>鍵盤ハーモニカの練習に意欲的に取り組んでいるが、タンギングや正しい運指の定着には個人差がある。</p>	<p>意欲的に音遊びやリズム遊びをしているが、リズムの違いや拍の流れを感じる事が苦手な児童もいる。</p>	<p>興味をもって鑑賞しているが、思ったことや感じたことを言葉に表現することが難しい児童もいる。</p>
	中学年	<p>歌うことが好きで、自然な発声で楽しそうに歌う児童が多いが、曲想にふさわしい表現や思いをもって歌える児童は少ない。</p>	<p>リコーダー学習には意欲的に取り組むが、運指、タンギング、息の強さの習得は、個人によって差がある。</p>	<p>拍にのってリズムを叩いたり、リズムや旋律をつくったりする活動に楽しく取り組むことはできるが、発想をもって即興的に表現する経験は十分でない。</p>	<p>曲想やその変化を感じ取ることはできるが、音楽要素とのかかわりや曲の構造と結び付けて聴ける児童は少ない。</p>
	高学年	<p>自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う児童が多いが、地声になる児童もいる。表現を工夫し、思いや意図をもって歌う児童は少ない。</p>	<p>合奏には意欲的だが、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する意識は低い。楽器の特徴を生かして演奏を工夫することができる児童も少なく、譜読力も十分とは言えない。</p>	<p>リズムアンサンブルや和音の音を使った旋律づくりに楽しみながら取り組むことができるが、思いをもって表現に活かしたり、即興的に演奏したりする活動は十分ではない。</p>	<p>曲想やその変化など、楽曲の特徴を感じ取ることはできるが、曲の構造の理解や音楽を形づくっている要素と、想像したことや感じ取ったことを結び付けて聴く活動には個人差がある。</p>
改善策	低学年	<p>範唱や友達の歌声に耳を傾け、情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして思いをもって歌うように指導する。</p>	<p>個人の習得状況を把握し、個別指導やグループ学習を取り入れることで全体の習熟度を高めていく。</p>	<p>リズムの違いやまとまり、拍の流れを体全体で感じ取っていけるよう、リズム遊び、拍の感覚を養う活動を継続して行っていく。</p>	<p>体の動きを取り入れて楽曲の気分を感じ取らせる。音楽の様子や感じを表す言葉の例を提示して感じ取ったことを言葉で表現することに慣れさせていく。</p>
	中学年	<p>歌詞から思いを想像したり、曲想を感じ取ったりすることに加え、音楽を形づくっている要素を感じ取ることで、表現に生かせるようにしていく。</p>	<p>継続的な取り組みや個別指導、グループ学習を効果的に行う。範奏や友達の演奏を聴いて、よりよい音色に気付かせ演奏に生かすようにする。</p>	<p>発想をもって打楽器で直観的に選択したり判断したりして表現するために、楽器の材質の違いによって音の特徴や雰囲気が異なることに気付かせる。幅広く、また継続的に音楽づくりに取り組むようにする。</p>	<p>曲を特徴づけている音楽の要素や構造に気付かせるために、鑑賞時の視点を明確にしたり、体の動きを伴ったりする活動を取り入れる。</p>
	高学年	<p>発声練習を継続して行い、豊かな歌声を目指す。歌詞の内容や曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素を感じ取ったりすることで、表現の工夫に生かし、思いや意図をもって歌うように働きかける。</p>	<p>全体の響きを感じ、互いの音をよく聴き合いながら一つの音楽を創り上げる意識をもたせる。日常的に階名唱をしたり、フラッシュカードを利用したりして、譜読力を高める。</p>	<p>これまでの音楽表現を振り返らせ、音楽づくりに生かす。発想や自分なりの思いをもち、まとまりのある音楽をつくる活動や、それらを聴き合いよりよい表現を目指す活動など、幅広く取り組むようにする。</p>	<p>旋律を歌ったり、学習シート、板書を工夫したりして、楽曲構造の理解を進める。語彙や語尾の例の掲示や、友達との意見交流を通して、新たな感じ方や言葉の選び方に気付かせる。</p>

図工科 授業改善プラン

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も関心をもって意欲的に取り組んでいる。 ・作品の仕上がりにこだわりをもてるようになった。 ・コンクールに参加し成果をだせた。友達が入選できたことを素直に喜び合っている。 ・児童が使える描画材の種類を増やせる学習を多くし、画用紙などの基底材の形や材質を変えて造形活動を行った。その結果、表現するテクニックを選び作品の完成に対して充実感をもつことができた。 <p>・今年度は40人近いクラスが2学年5クラスあり、スペースが狭く活動しにくい。</p>
児童の実態・課題	<p><低学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体感的に形や色などをとらえながら表現活動をしている。 ・基礎基本の道具や材料を安全に使えるようになってきた。 ・制作の時間配分や片づけが手際よくできていない。 <p><中学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階から自分の表現に自信をもてない児童が出ている。 ・形や色、組み合わせなど様々な感じをとらえて、受けた印象と対象を分けることができるようになってきた。 <p><高学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色などから分析的に見たり、心情や気持ちを読み取ったりできるようになっている。・新しい技法や描画材など新しい知識に対して意欲的に取り組み、活用できている。 ・図工室に入ると静かに準備し説明や板書を確認して作業している児童がいる反面、題意を捉えられず、いつまでも自ら活動できない児童が目立つ。 ・片づけを作業班ごとに分担してできる。
改善策	<p><低学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の道具や材料の扱い方をその都度安全に使えるよう指導していく。 ・児童の生活や身近な素材をモチーフにして、のびのびと作ったり描いたりさせ、個別指導にあたっていく。 ・指先を使う細かな活動や、体全身を使ったダイナミックな活動の両方を経験させる。 ・何を制作したら良いのか迷う児童に、個別に適切な助言をする。 ・準備、片づけを自分たちでできるようにしていく。 <p><中学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい材料や表現方法を学んでいく。 ・初めて使う道具や工具の正しい扱い方、安全指導を徹底指導して、実際にそれらの道具を使って表現できるようにしていく。 ・個人の活動はもちろん造形遊びなど、友だちと関わる活動も多く取り入れていく。 ・プロジェクター、書画カメラを活用しお互いの作品を鑑賞させ意見交流させていく。 ・授業の準備・片づけを友達と協力して積極的にできるよう少人数の班単位で活動する。・児童の動線に配慮して机・道具の配置を変更して、安全・快適に授業が行えるようにする。 <p><高学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の活動を大切にしながら、班活動も取り入れお互いのアイデアを参考にし、共有させながら表現力を伸ばしていく。 ・上級学校に進んでも、図工で学んだ知識や技能が継続して学習に活かせるよう、具体例を示しながら指導していく。 ・国内、海外の美術作品を鑑賞させ伝統や文化にも目を向けさせ、鑑賞の幅を広げていく。 ・新しい道具や工具を使う機会を増やし、新しい技法や描画材をたくさん体験させる。 ・プロジェクター、書画カメラを活用しお互いの作品を鑑賞させ意見交流をさせていく。 ・授業の準備・片づけを自ら進んで行動できるよう指導していく。 ・作業の取り掛かりの遅い児童には個別指導をし、助言していく。

家庭科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p>【成果】</p> <p>○児童一人一人が、学習のめあてを明確にもって活動し意欲的に学習に取り組むようになった。</p> <p>○調理の学習では安全に気をつけてグループで協力して学習に取り組むことが出来た。</p> <p>○裁縫の学習では基本的な技能を生かして自分の生活に使える手縫いやミシン縫いの作品を作り上げ達成感をもつことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○今年度は児童数が多い学級があり調理実習や作業活動等で作業スペースが少ない。安全に気を付け机の配置やグループの数等工夫が必要である。</p>			
児童の実態・課題	<p>○児童の興味や関心は高い。</p> <p>○5年生は早く裁縫道具を使いたい、調理実習を試みたいという希望が強い。実習では意欲をもって取り組んでいる。</p> <p>○6年生は5年生の時に身につけた知識や技能を使って学習している。</p> <p>○自分の知識技能を使ってさらに発展的に学習し意欲的に取り組むようにしたい。</p>	<p>○自分の目標や課題に対して自分なりの考えや意見を持っている児童が少ない。</p> <p>○友だちの良いところを見つけて、グループで話し合いの学習では意見を言うことができる。</p>	<p>○児童の生活体験の有無によって個人差が見られる。調理では、自分で簡単な朝食や夕食を作ることが出来る児童もいるが、包丁を全く持ったことがない児童もいる。裁縫では家庭で針や糸ミシンを使う児童は少ない。</p> <p>○作業時間等個人差が多い。</p>	<p>○調理用具の使い方、火の扱い方、裁縫用具、ミシンの扱い方等名前や使い方を理解しているが定着していないことがある。</p>
改善策	<p>○5年生では基礎的な学習内容を多く取り入れ、6年生では5年生で学んだことを発展的に取り上げるよう指導の工夫をする。</p> <p>○6年生では移動教室の前にカレーライス作りを家庭で行い、家庭生活にもいかせる。課題に取り組み持続できるようにする。</p>	<p>○友達と意見交換や作品を見せ合うことにより良いところを見つけ次の学習につなげる。</p> <p>○栄養のバランスのとれた1食分の献立をたて実際に調理実習をする等具体的な活動を通してグループでの話し合い活動を活発にさせる。</p>	<p>○授業の中で実習等体験活動を多く取り入れ技能を身に付けさせる。</p> <p>○基本的な技能の指示はICT機器を使用したり、作業を細分化したり分かりやすくする。</p> <p>○グループ活動等で教え合い学び合いを行う。</p>	<p>○用具の名前や使い方は実物を使って分かりやすく指導し、理解できるようにする。</p> <p>○繰り返しの指導を行う。</p>

生活科 授業改善プラン

<p>昨 年 度 の 成 果 と 課 題</p>	<p>○多摩川土手という身近な環境を生かして繰り返し体験活動をするにより、四季の自然の変化や生き物の成長に気付くことができた。</p> <p>○下学年（2年生は1年生、1年生は幼保）との関わりをもつことで、自主的に活動できる児童が増えてきた。</p> <p>○活動計画の段階で、活動の動機やめあてをはっきりさせ、活動後の振り返りをしっかりと行うことで、友だちと協力し合って、自分の考えをもって行動できるようになった。</p> <p>○普段行ったことのない公園や神社に行ったので、町の様子が分かってきた。</p> <p>○身近な自然を利用したり身近にあるものを使ったり（アサガオのつるやドングリ）して、遊ぶことや遊ぶものを作る中で、自分の気付きや想いを表現できるようになってきた。</p> <p>○多摩川に特化した図鑑を用いたことで、多摩川の植物を効率的に調べることができた。</p> <p>○多摩川の自然に興味をもったものを、四季を通じて観察したり調べたりして、変化に気付くことができた。</p> <p>○多摩川土手に出かけることが多く、他の単元の時間が十分にとれない。</p> <p>○多摩川土手で昆虫や植物に興味をもつ児童もいるが、遊びで終わってしまう児童もいた。</p>
<p>児 童 の 実 態 ・ 課 題</p>	<p>○多摩川土手での活動を継続的に行うことで、興味や活動を深めていっている。</p> <p>○伝え合い交流する活動では、相手のよいところや活動の中で気付いたことを、友達に伝えることができるが、まだ自分の想いを伝えることが難しい児童もいる。</p> <p>○多摩川での活動に重点をおいたカリキュラムのため、自分自身の成長を振り返る時間が十分にとれていない。そのため、自分自身の成長の気付きが薄い。</p> <p>○自分たちで計画を決めたり、動いたりする場面では、意欲的な児童に頼ってしまうことがある。</p>
<p>改 善 策</p>	<p>◎年間計画を見直し、多摩川の活動とその他の単元とのバランスを考え、どちらも充実させていく。</p> <p>◎多摩川に特化した図鑑を計画的に増やしていき、グループに一冊使用できるようにしていく。</p> <p>◎伝え合い、交流する活動をできるだけ設定し、自分の思いを伝えられるようにする。</p> <p>◎見通しの立ちやすい計画的な活動の組み立てや、体験活動中の支援の充実によって、充実感や達成感を味わわせ、自分に自信をもたせるように支援していく。</p> <p>◎活動のまとめ方を工夫し、2年生が1年生に教えてあげるような発表会の機会を作っていく。</p>

体育科 授業改善プラン

<p>昨年度の成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休み時間に、校庭で遊ぶ児童が増えており、遊具で遊んだり、芝生の上を走ったりすることで、色々な動きを経験することができている。 ○ 持久走大会に向けて計画的に取り組むことによって、体力テスト(平成28年度)の結果では、全体的に持久力が、少し上がってきている。 ○ 授業内容やチーム編成、ルールを工夫したことで、自分のめあてを設定して取り組める児童や、友達にアドバイスや励ましの声掛けをする児童が増えた。 ○ 友達の動きをよく見ることで、よいところを自分の動きに取り入れることのできる児童が増えた。
<p>児童の実態・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都の体力、運動能力調査では、1年生は全ての種目で全国平均を上回っていた。しかし、2～6年年は、半数以上の書目が全国平均を下回っている。 ○ 都の体力、運動能力調査におけるアンケートでは、多くの児童が「運動が好き」「やや好き」と答えているように、学校全体として運動に対する意欲関心は大変高い。 ○ 同アンケートで2割程度の児童が、運動が「やや不得意」「不得意」と答えているように、運動は好きだが、自分の技能面に対して課題意識を感じている児童もいる。 ○ 興味・関心・意欲、技能共に、好んで運動する児童とそうでない児童の差が大きくなっている。興味のある運動には熱心に取り組むが、興味のない運動については、運動をやりたがらない児童もいる。 ○ 生活経験の違いから運動技能の差が大きい。全体的に器械運動が苦手である。 ○ 俊敏性と持久力が未だに低い傾向にあるが、授業の前に持久走を行う習慣ができてきた。 ○ 得意な児童は休み時間もボール遊びに取り組むが、苦手な児童はボールを使った運動に取り組もうとしないため、ボール操作の技能に差がみられる。
<p>改善策</p>	<p><低学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 日常生活では経験できない動きを経験させたり、基本的な運動やゲームの中で友だちの良い動きをまねしたりして、基本的な運動につながる技能や動きを身に付けさせていく。 ◎ 授業の中で、準備運動、体ほぐし体操などで柔軟性も高めていくことでしなやかな体をつくる。 <p><中学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 器械や器具を使った運動では、学習カードや掲示物を活用して技能のポイントを示し、スモールステップで上達していけるようにする。 ◎ グループ学習を通して互いを励まし合ったり、良い動きを見つけたりしながら、運動技能を高められるようにする。 <p><高学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 正しいフォームや動きのポイントを押さえた効果的な声かけや学習カードの工夫で、一つずつステップを踏んで技ができるようにする。 ◎ みんなが楽しく運動できるようルールを工夫しつつ、お互いに励まし合いながらゲームを進めていけるよう、声かけを行う。 ◎ 準備運動で、主運動につながる動きを多く取り入れるようにする。 <p><全学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 年間を通して、授業の初めに体力を高める運動を取り入れることで、持久力の向上を図る。(1学期：体力テスト 2学期：持久走 3学期：なわとび) ◎ 1校1取組である持久走において、一定の条件をクリアした児童を表彰するなどして持久走に対する意欲を高める。 ◎ 運動能力の高くない児童も活躍できるようなルールを考え、全員が自分にあつためあてをもち、楽しめるような活動にする。